

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400115
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム まごころ
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1番地238 (電話) 0994-32-6676
自己評価作成日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念「まごころ」「寄り添い」「支え合い」を目標に日々ケアに努めている。一見安易な言葉にも感じるが、その一つ一つに重みを感じながら入居者様との関わり、そして自分たちが入居者様から成長させて頂いている事に感謝しながらケアを行っている。その感謝を忘れずに、自分たちが入居者の自己実現に近づけるように、職員一丸となり、向き合っている。また、人材不足が深刻化している中、「人がいないから忙しい」などの考えではなく、専門職としての在り方をしっかりと考え、ケアの工夫を行いながら、質向上に向けて考えるようにしている。

- ・町内会に加入し、地元の祭り「おんだんこら祭り」や「産業まつり」などの地域行事に積極的に参加している。事業所の行事にも地域の人々の参加がある。保育園児との交流・中学生の職場体験学習・ボランティアの受け入れなどを行い、日常的に地域と交流している。認知症サポーター養成講座など、地域で認知症について話す機会を設けている。
- ・消防署立会いのもと年3回、昼夜間想定避難訓練をマニュアルに沿って実施している。今後、東日本大震災の教訓を活かして、津波の訓練を取り入れる計画である。近くのスーパーマーケットや葬儀屋・消防分団など地域との協力関係もできている。スプリンクラーや緊急通報装置も整備し、定期的に設備等点検も実施している。
- ・管理者や職員は利用者の習慣や思いを把握し、生きる喜びに繋げるように支援している。
- ・身体拘束廃止委員会が法人全体で毎月開催し、研修会に参加した職員が、事業所でのケア会議で伝達し、身体拘束についての勉強会を行っている。言葉による拘束を含め事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は掲げるだけでは意味がないこと、ケアに携わる自分たちの道しるべであることを共有している。経験等においてはまだ難しさも感じる職員がいる中で、ケアの一つ一つをチームで考え、理念に沿ったケアができているのか定期的に話合っている。	独自の理念を掲げている。玄関や事業所内に掲示し、作業着にも印刷している。申し送りや職員会議等で振り返りを行い、理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の「おんだんこら祭り」や「産業まつり」などへ参加している。また事業所の行事においては、地域住民、地元の保育園児に来ていただき、交流を深めている。	町内会に加入し、地元の祭り「おんだんこら祭り」や「産業まつり」などの地域行事に積極的に参加している。事業所の行事にも地域の人々の参加がある。保育園児との交流・中学生の職場体験学習・ボランティアの受け入れなどを行い、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症サポーター養成講座など、地域で話す機会を定期的に設けている。また社協と共同で地域のサロンに出向き、認知症の理解普及活動に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議においては、民生委員、行政、家族等に参加して頂き事業所の報告や参加者からの意見等を交え行っている。現状、地域に馴染むところでは努力を要するが、地域の行事やサロン等の情報を頂き、積極的に参加したいと考えている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット・事故報告・外部評価の報告などを行い、参加者からも多くの情報や助言・提案がある。地域猫対策を話し合い環境保全に活かしたり、挨拶の仕方等、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議等において、事業所の実情、または助言等頂きながら意見交換を定期的に行っている。また、相談しやすい環境を作って下さるので、事業所としてもスムーズに行えている。</p>	<p>市担当者とは、電話で話したり窓口に出向き事業所の実情などを伝え、助言などをもらい、連携を深めている。運営推進会議を通して協力関係もできている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内で身体拘束委員会があり、事業所、他事業所間での情報共有を行っている。身体拘束はもちろんだが、言葉の拘束は職員間で定期的な話し合いやケアにおける場面を用いながら、話し合い防止に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会が法人全体で毎月開催し、研修会に参加した職員が、事業所でのケア会議で伝達し、身体拘束についての勉強会を行っている。言葉による拘束を含め事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間、玄関は施錠せず、見守りや同行などで安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>介護職の虐待問題が社会的に多発している中、客観的に捉えながらも自分たちが真剣に受け止めないといけない事だと伝えている。ケアの場面でストレスを感じる場面など積極的に意見交換を行い、共有しながら対策を考え、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年1回外部講師を招き、研修会を行っている。また外部研修などにも参加し、学ぶ機会を持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を締結する前に、必ず説明を行っている。特に長期の入院など解約の可能性があるケースにおいては、その後の支援もしっかり行うことも伝え、不安解消に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からは日常の関わりから、家族からは面会時など積極的にコミュニケーションを図りながら、意見を頂く様にしている。また運営推進会議などで行事を行った際に、参加利用者からこのような声も上がりましたと行政、民生委員にも共有して頂いている。</p>	<p>利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き対応している。家族には面会や家族会・近況報告を兼ねた電話連絡・運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。便りで現状報告をしている。出された意見や要望を職員で話し合い運営に反映している。「居酒屋に行きたい」などの要望もあり、家族の協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的な面接を行いながら、意見を聞くようにしている。また運営においては、管理者が行うのではなく、現場に携わるすべての職員で作り出すものだと伝え、いい意見など積極的に取り組めるように環境づくりに努めている。</p>	<p>管理者は職員とのコミュニケーションを図り、申し送りやケア会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。会議は、進行も司会も職員主体で進めている。食事の盛り付けや席替えなど、職員の提案を検討してケアに活かしている。相談事は個別に対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人面談で一人一人伝えている。管理者として臨むこと、職員が目指していることなど、定期的にすり合わせながら、できるだけ向上心を持てるように配慮している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々で「目標管理シート」を基準に取り組んでいる。目標に関しては、実現可能な目標を設定すると共に、力量に合わせて、無理のない設定に心がけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月1回、地域で行われる研修会にスタッフをランダムに参加させ、他事業所とのスタッフとの関わりを持たせるように行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>正直、入所を望めれてくる利用者はいない事。入所と同時にリロケーションダメージに落ちやすいことから、入所することで家族との絆が途切れたわけではない事を関わりの中から伝え、安心生活ができるように、自分たちが何か手伝えりことはないかなど、ご本人と話し合いながら関係構築に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の思いは様々で、できるだけ”施設”とのイメージを無くして頂けるよう、面会時などに家族から話しかけるのではなく、職員から話しかけ、些細なことでも相談にのれる環境づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、家族の思いを確保しながら、徐々にサービスに繋がられるように努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の大先輩であることを忘れず、一人の人間として尊重し、日々の生活の中で自分たちも理解して頂けるよう、日々努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会だけではなく、可能であれば短時間でもいいので外出を促したり、外で食事をするなどの提案を行い、利用者と家族が今できることを少しでも考え、提案できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人など、他の事業所へ入所されているケースが多く、入所先へ問い合わせ、面会などが可能な場合は極力、会える機会を設けている。	家族や友人・知人の面会を奨励し、居室を自由に訪問できる環境である。行きつけの理美容院への支援や手紙・電話の取次ぎなども行っている。自宅訪問や買い物・外食・墓参など、家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者を見極めながら、席配置を考えている。気分の変動が多いため、スタッフ間で情報等しっかりと共有し、臨機応変な対応に心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時など、これで終わりではなく、力になれること、相談したいことなどは、いつでも頼ってほしいと伝えており、今現在でも、定期的に不要の新聞などを持ってきてくださるご家族もいて、関係維持に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にご利用者とコミュニケーションを図りながら希望などの把握に努めている。「自宅に帰りたい」との希望も多い中、ご家族に協力などをもらいながら、できるだけ希望に沿えるように心がけている。	日々の関わりの中で、特に入浴時や夜間勤務の時などに声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努め、申し送り時に情報を共有している。困難な場合は本人本位に検討している。自宅に帰りたい意向を、家族の協力を得て支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供だけでなく、ご本人、御家族からも情報を得ながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアや些細なことなど、職員間で共有を行うと共に、昼礼も設け、日常的な変化を見逃さないように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的介護計画のチェックは職員全員で実績記録表を用いて行っている。また、利用者一人一人に担当職員を設け、細かいサービス提供確認ができるように努めている。	本人・家族の意向を確認し、主治医の助言などを基に担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎に検討している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録が定型文化している事から、昨年変更を行う。気になる場面で専門職としてどのように感じたのか？対応後はどうだったのかなど、様々な気づきを共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の現状により、他の医療機関への受診などは、可能な限り対応している。現在、サービスに伴わないニーズはないが、今後出てくるニーズなどには可能な限り、対応できるようにしていきたいと思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみのあるスーパーやお寺など積極的に行けるように支援している。行くだけではなく、利用者の日課として構築できるよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主体が医療法人であるが、利用者は入所に至るまでなじみの医療機関などがあり、そことの関係が入所により途切れないように支援している。また、定期受診が家族によってできない場合は、ホームで支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の往診は2週間に1回。定期受診や他科受診は家族の協力を得て支援している。健康管理や緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>いつもと違う事など些細なことでも看護師に報告し、早めの対応に心がけている。また、経験人が浅い職員など積極的に指導してもらいながら、ケアの中において早めの対応ができるように、心がけている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した時以外にも、他の医療機関とは定期的に情報交換を行って関係構築に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアについては入所時に説明を行っている。時間の経過や現実的な状況になるまで、意思の確認を行うと共に事業所だけでなく、主治医ともしっかり連携が図れるように配慮している。</p>	<p>契約時に「ターミナルケア指針」の説明を行っている。状況変化に伴い本人や家族の意向を随時確認し、医師を交えて話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の手順確認などは定期的に行っている。また連絡体制などの確認などもおこなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間3回避難訓練を行っている。昼間の想定だけではなく、夜間など人員が少ない中から避難する事や連絡体制などを確認しながら行っている。また訓練には近くのスーパーや葬儀屋の方にも参加して頂き、協力体制の確認を行っている。今後は東日本大震災の教訓から津波の避難訓練も取り入れていきたいと考える。</p>	<p>消防署立会いのもと年3回、昼夜間想定避難訓練をマニュアルに沿って実施している。今後、東日本大震災の教訓を活かして、津波の訓練を取り入れる計画である。訓練時には近隣に協力依頼している。法人の消防委員会も見学に来ている。近くのスーパーマーケットや葬儀屋・消防分団など地域との協力関係もできている。スプリンクラーや緊急通報装置も整備し、定期的に設備等点検も実施している。水や米・カレーライス・牛丼・肉じゃがの煮込み等の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩方に携わることを理解すると共に、人生の生き方や生活もそれぞれであり、そのことを踏まえながら専門職として支援していくことをしっかり職員は理解しながら行っている。	年1回、権利擁護や接遇等について外部講師による法人内研修に参加している。事業所でも勉強会を行い、職員の資質向上に取り組んでいる。日頃のケアを振り返り、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が「～しましょう」などの主体にならないよう注意し、コミュニケーションにおいて必ず自己決定できる支援に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、それに利用者に乗せるのではなく、積極的に活動したい方はしていただく、部屋でゆっくりしたい方はしていただくなど、その日のご本人の意向に沿って支援する様心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服は必ずご本人に選択して頂いている。また髪の毛の整髪もできるだけしていただくよう、環境整備に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫、下ごしらえなど積極的に参加して頂いている。また食事前のテーブル拭き、食後の下膳なども積極的に参加して頂き、生活のメリハリがつくように心がけている。	栄養士の献立である。菜園の野菜や旬の食材で嗜好に配慮し、個々に応じた食事形態を工夫している。テーブル拭きや下膳など職員と一緒に行ったりしている。誕生日に、ケーキを作り、家族にも声をかけている。季節の行事食や外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューにおいては、管理栄養士の指導を受けながら、食事提供を行っている。またアレルギーや嗜好は様々で、それに応じた提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、最初は自己にして頂き、その後支援を行うなどできるだけ自立を促せるように配慮を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を毎日記録し、パターンなど理解すると共に、自分のペースでしっかり排泄できるよう支援している。またおむつを着用している方に対しても、トイレでの排泄を促しながら、脱おむつを支援に取り入れながら支援している。	排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。オムツ利用者に対しても、トイレでの排泄を支援し、オムツ外しの改善ができた事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶の時間でコーヒーなどオリゴ糖を入れて便秘予防に努めている。また水分摂取量を毎日記録し、摂取量の確認を行い、少ない方などには好きな飲み物を積極的に提供し、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お風呂は楽しみの時間になっていただけるよう、できるだけ個人の希望に沿って行っている。業務的に昼間の入浴になりがちではあるが、夜間等希望があればそれに沿って支援を行っている。	個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。足浴や清拭・陰部清浄など、状況に応じ支援している。シャンプー・リンスの個別対応もある。入浴を拒む場合は声かけや時間調整など職員間で連携して、状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、就寝時の照明パターンなど、職員間で共有していきながら、少しでも快適な睡眠ができるように配慮している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は毎日事務所で管理し、スタッフが複数に確認し、誤薬予防に努めている。また服薬させるだけでなく、どのような作用があるなどすぐに確認できるように管理表を備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事の指導などは、基本的に利用者をお願いしている。昔からの経験などから、職員が教わることも多く”先生”として立っていただくことで、少しでも生活に張り合いを持っていただくようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	病院受診など、ただ受診するだけではなく、地域にドライブに出かけたりしている。また、日常の会話から「昔、あの神社まで友達と歩いたもんだ」との話をきっかけに可能の範囲で出かけて、昔を思い出して頂く様な配慮を行っている。	日常的には周辺の散歩や買い物に出かけている。受診の際にドライブで馴染みの場所へ出かけたり、利用者の希望に合わせて計画している。年間計画で初詣や花見・ソーメン流し・外食に出かけている。家族の協力で外泊や外出・外食・理美容院・墓参等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金の中から、遠足や買い物など必要なものなど個人で購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をしたいときは、積極的にしていただき家族と話ができるよう支援している。また、毎月ご家族に手紙を書きたい方は書いて頂き、現況を報告し合ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームフロアの天井は高く設計されているため、圧迫感ができるだけないように配慮している。また工作などで季節の花などを利用者と共に作成し、定期的に雰囲気が変わり新鮮さを感じられる空間づくりに努めている。	共用の空間は天井が高く明るくて広く開放感がある。採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。行事の写真や季節に応じた飾りつけがある。和の空間があり、大きなソファも設置され、安心してゆったり過ごせるような工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ等を配置し、集団で過ごす以外の空間も設け、活用して頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に利用者本人、ご家族様と相談し自宅で使用されていたなじみのある物、仏壇などおいて頂き、できるだけ自宅にいる雰囲気を持ち、居心地の良い空間になるように配慮している。	ベッドとタンスは備え付けである。寝具や仏壇・家族の写真・時計等、使い慣れた物を持ち込んでいる。自宅にいる雰囲気を大切に安心して過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの場所は、できるだけわかりやすいように表示している。また利用者様が移動する動線など障害物や落下物がないように配慮している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない